

在宅医療、介護保険、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、全て名前は聞いたことがあるし、授業でも教わったが、正直なところあまり印象には残っていなかった。ただ上田クリニックでの一週間の実習で実際にその現場を体験することで一部ではあるが仕事の内面、大変さを理解できたと思う。それに加え今回、上田クリニックでの実習では大学病院での実習との違いを感じることができた。

大学病院の実習では疾患や病態をみて、それを治療するために何をするかを考えるのが主な目的で患者さん自身についてはあまりみていなかった。ここではじっくりと患者さん・家族と話して、日常生活に活かしていくことの重要性を学んだ。また、生活と直結するような問題が多く、一筋縄ではいかないことが多いが、医師だけではなく訪問看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、ヘルパー、理学療法士などさまざまな領域の人達が連携をとっている姿をととも感じることができた。細かいことだが、大学病院には当たり前のように置いてあっていつでも好きなだけ使える器具や物品が、在宅医療ではなかなかそろっていないということだ。カニューレー一つでも取り寄せなければならなかったり、とても高価であったりすることがあり手間がかかることが分かった。実習前は、在宅医療というと寝たきりの人を想像していたが今回、同行してみているいろいろな問題を抱える人がいることを感じた。一見なんでもなさそうに見えるが認知症のある人、小児の在宅医療など、これから考えていかなければならないことが多かった。緩和ケアの勉強会にも同行させていただいて地域との連携も見ることができた。

今回、初めて在宅医療の現場を体験できて新鮮だった。これからますます高齢化が進む社会で、どのような分野でも高齢者や在宅医療への対応を求められるようになる。ここでの往診や訪問診療でその必要性を直に感じる事が出来た。ここで学んだことを実習、そして医師になった後にも活かしていきたい。